

県内復興・経済日誌（2017年4月）

1日

《JR 郡山富田駅開業》

郡山市に JR 磐越西線の新駅「郡山富田駅」が開業し、同駅に隣接するふくしま医療機器開発支援センターで式典が行われた。旧国鉄時代を含めて県内の JR の新駅開業は昭和62年の磐越東線・江田駅（いわき市）以来、30年ぶりとなった。同駅周辺には奥羽大学や郡山北工業高校があり、また、宅地開発が進んでいることから、地元自治体の要望で JR 東日本が整備した。

《富岡町、帰還困難区域を除く避難指示が解除》

政府は、原発事故で全域を避難区域としていた富岡町の居住制限と避難指示解除準備の両区域の避難指示を解除した。これにより、今春に予定された同町と浪江町、川俣町、飯館村の4町村の解除が終了した。富岡町の避難指示解除区域の対象人口は3,817世帯9,544人（3月1日現在）で、町全体の約7割に相当する。

6日

《東邦銀行富岡支店と大熊支店が再開》

原発事故による避難指示が一部を除いて解除された富岡町で、東邦銀行は富岡支店と大熊支店を同一店舗内に併設する形で約6年ぶりに営業再開した。同町小浜の旧富岡支店から約400メートル北の同町中央2丁目に新店舗を設けた。営業開始とともに多くの住民が窓口を訪れた。原発事故後、臨時休業していた同行の相双地区6支店のうち、檜葉支店、小高支店に続く営業再開となった。

《郡山市に再生可能エネルギー産業集積推進、県の支援機関が開所》

県は、郡山市の県ハイテクプラザ内に「エネルギー・エージェンシーふくしま」を設立し、現地で開所式を行った。再生可能エネルギー関連産業の県内への集積や県内企業の技術開発、海外展開などをサポートする。民間企業出身のコーディネーター、事務局長ら10人で始動した。

7日

《世界最新鋭 IGCC 発電所着工、2020年運転開始予定》

三菱グループ3社と東京電力ホールディングスなどが昨年設立した勿来 IGCC パワー合同会社は、いわき市岩間町に新設する世界最新鋭の石炭ガス化複合（IGCC）発電所を着工した。常磐共同火力勿来発電所の東側の土地約7万平方メートルに IGCC 発電所1基を建設する。出力は約15万世帯分に当たる約54万キロワットに上る。環境負荷が少ない石炭利用技術「クリーンコール」の一大拠点とする計画で2020年9月の運転開始を目指す。

13日

《日本ギフト大賞2017、県内の2菓子が受賞》

優れた贈答品などを顕彰する「日本ギフト大賞2017」（主催・日本ギフト大賞選考委員会）の各賞が決まり、表彰式が東京都で行われた。地域色豊かな「都道府県賞」には白亜館（会津若松市）のゼリー「水さやか」が選ばれた。話題賞には柏屋（郡山市）の薄皮饅頭などの「日本三大まんじゅう」が輝いた。

16日

《郡山市長選挙、品川氏再選》

任期満了に伴う郡山市長選の投票および開票が行われ、現職の品川萬里氏が子育て支援などを訴えて67,354票を獲得し、再選を果たした。投票率は過去最低の38.05%であった。品川氏の任期は4月27日から4年となる。

18日

《ワイングラスでおいしい日本酒アワード、人気酒造が4年連続最高金賞》

「ワイングラスでおいしい日本酒アワード2017」のスパークリング SAKE 部門で人気酒造（二本松市）の「Rice Magic 人気一スパークリングレッド」が4年連続の最高金賞に輝き、東京都内で表彰式が行われた。日本酒をワイングラス

に注いだ際の見目の美しさや香り、味を競うもので、今回はメイン、スパークリング SAKE、大吟醸の3部門に242蔵元から過去最多の673点の応募があり、最高金賞34点、金賞160点を選出した。

《「クールアグリ」と「若旦那プロジェクト」の連携事業が始動》

県内の若手農業者でつくる一般社団法人「クールアグリ」と県北地方の若手旅館経営者による「ふくしま若旦那プロジェクト実行委員会」の連携事業で、両団体の会員が参加した初の交流会が福島市で開かれた。両団体の会員を紹介する高校生や大学生向けの新たな「若旦那図鑑」を制作し、若い世代に農業と観光業の魅力をアピールすることなどを決めた。県北地方の温泉地の旅館やホテルで「クールアグリ」の会員が生産した農産物を素材にした料理を提供するなど業種の垣根を越えた連携事業を始める予定となっている。

19日

《西郷村、福島4区への編入案が提示》

衆院選挙区画定審議会は、衆院選挙区の本県4区に現3区の西郷村を編入するなどとした区割り改定案を安倍首相に勧告した。政府は勧告を反映させた公選法改正案を国会に提出する方針であり、成立後、約1カ月の周知期間を経た後の衆議院選挙から適用される見通し。

20日

《「酒マイスター」創設、田崎真也氏が第1号》

県は、県産日本酒の魅力国内外に発信するため「ふくしまの酒マイスター」制度を創設し、世界的ソムリエとして知られる田崎真也氏を第1号に委嘱すると発表した。ふくしまの酒マイスターには著名人など社会的影響力のある人物や、福島の復興に貢献している人などを順次委嘱し、知名度を生かしてそれぞれの専門分野での活動を通し県産酒の品質の高さをPRする。

21日

《「リバティ会津」運行開始、首都圏と直結》

南会津町の会津田島駅（会津鉄道）と東京都の浅草駅を結ぶ東武鉄道新型特急「リバティ会津」が運行を開始した。会津田島駅で記念式典が行われ、到着した一番列車を多くの住民が歓

迎した。特急は1日4往復し、最短の所要時間は3時間9分。南会津と東京都内が乗り換えなしで直接結ばれることによって、首都圏から会津地方全体へ外国人を含めた誘客促進が期待されている。

23日

《富岡町に廃炉研究拠点が開所》

日本原子力研究開発機構が富岡町に整備した廃炉国際共同研究センター国際共同研究棟の開所式が、同町本岡の現地で行われた。研究棟は鉄骨2階建てで延べ床面積約2,115平方メートル。最新の分析装置を備え、放射性廃棄物の処分の研究や熔融燃料（燃料デブリ）の分析、遠隔技術に関する開発などを進める。楡葉町の楡葉遠隔技術開発センター、大熊町の大熊分析・研究センターと連携し、人材育成、情報発信にも取り組む。

25日

《2016年度、県産農産物の輸出量が震災後最大》

県は、福島市で開かれた県貿易促進協議会総会において、県産農産物の2016年度の輸出量が61.0トンと、前年度を21.7トン上回り原発事故後で最大となったと発表した。特にモモは前年度の約3倍の30.6トンと、原発事故前である2010年度の23.9トンを上回った。一方、全輸出量は2010年度の152.9トンに対し4割程度の回復にとどまっている。

26日

《復興相に吉野正芳氏就任》

安倍首相は、辞任した今村雅弘復興相の後任に、衆院震災復興特別委員長を務める自民党の吉野正芳氏（いわき市出身、本県5区）を起用した。県選出国会議員の復興相就任は、2012年12月から2014年9月まで務めた根本匠氏（本県2区）に続き2人目となる。

28日

《いわき病院、難病治療にロボットスーツ導入》

国立病院機構いわき病院は、装着することで身体機能を改善するロボットスーツ「HAL 医療用下肢タイプ」を2台導入し、筋委縮性側索硬化症など進行性の神経・筋疾患患者に用いる治療を始めたと発表した。HALは、医療・福祉用ロボットを手掛けるサイバーダイン（茨城県つくば市）が開発した。